
残渣

みゆぐ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
残渣

【Nコード】
N7060Y

【作者名】
みゆぐ

【あらすじ】
飢えた体のまま、当てもなく、命を繋ぐために私は彷徨う。

私は飢えていた。

前回食事をしたのはいつだったのだろうか、前回何を食したのだろうか、もう憶えてもない程だ。

幾つの山を越えたのだろうか、幾つの谷を渡ってきたのだろうか、数える気力も残ってはいなかった。

「もう、私は駄目なのか……」

その日の夜は、新しい朝を迎える事の出来ぬ絶望感と共に眠りについた。

目覚めた私は、やはり飢えていた。

もう動けない、しかし動かなければ生きてはいけない。力の入らぬ足達を奮い立たせ、当てもなく歩き出す。

私は感じていた、恐らく私はもう駄目なのだろうと。

生まれた土地から随分と離れてしまった。食べては行けぬ土地だと見限りここまでやってきたが、このまま見知らぬ土地では死にたくはない。

私は振り返った、そして戻る決意をした。また幾つもの山を越え幾つもの谷を渡る事になるのだが、生まれ育ったあの土地で大地に帰りたいと願った。

戻り始めてすぐに、今朝まで寢床にしていた茂みを通った。そこには一匹のやつれた狼が息を引き取っていた。

「そうか……、もう遅かったんだな」

私は後悔した、生まれ育ったあの土地を離れた事を。

目の前に横たわる、自分の体を見ながら……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7060y/>

残渣

2011年11月21日10時57分発行